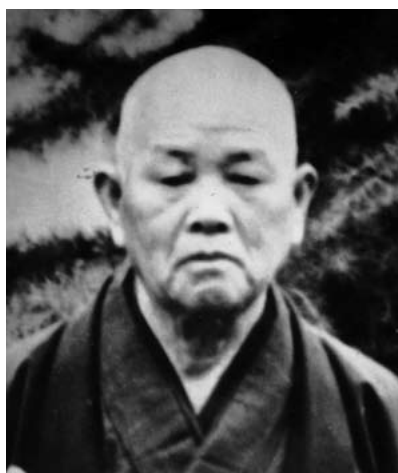


しのはら  
**篠原** さくたろう  
**朔太郎** (1865~1952)



**和紙製造功労者。**宇摩郡川之江村(現、四国中央市)出身。小学校卒業後、家業の製紙業に従事し始めた。16歳のとき、夏祭りの小遣いとしてもらった1円紙幣の透かし模様(はら)に感動し、紙を作る技術の研究を始め、紙を板に張るときに帚(はら)や刷毛(はら)を用いたり、紙の原料に藁(わら)や麻(あし)を混ぜたりする技術を発展させた。そして、各地の物産展や博覧会に出品するようになり、明治37(1904)年、アメリカのセントルイスで開かれた万国博覧会(てんくわい)に出品した典具帖紙(てんぐい)〔包装などに使う薄い上質(じょうしつ)の和紙〕が一等金牌を獲得し、その技術は高い評価を得た。

その後、東京の内閣印刷局(現、国立印刷局)抄紙部で製紙の機械や原料などをさらに研究し、機械動力による和紙用叩解機(くわいかいき)〔原料を細かく砕く機械〕や蒸気で乾かす三角乾燥機を開発したほか、よい原料を求めて朝鮮半島や台湾、北海道の山奥まで調

査を行った。機械化によって川之江の製紙業は大きく発展して全国的に有名な紙の生産地となり、多大な功績を残した朔太郎は、「紙聖」として称えられている。

## 略歴

慶応元(1865)年 9月22日	宇摩郡川之江村井地に生まれる。
明治13(1880)年	1円紙幣の透かしに感動する。
明治21(1888)年	カルキ(さらし粉)とパルプを導入する。
明治37(1904)年	セントルイス万国博覧会で一等金牌を獲得する。 内閣印刷局抄紙部の伝習生となる。
明治39(1906)年	洋紙用の叩解機を改良し、和紙用の叩解機として使えるようにした。
明治40(1907)年	蒸気乾燥機を発明する。
明治44(1911)年	回転式蒸釜を考案する。三菱製紙から紙の原料の研究を依頼される。
大正3(1914)年	宇摩製紙株式会社を設立し、本格的な機械漉き製紙を始める。
大正6(1917)年	北海道に行き、紙の原料を探す。
昭和26(1951)年	三菱製紙の関義城(せきよし)が『日本の手すき和紙』についての話を聞きにくる。
昭和27(1952)年 3月17日	86歳で永眠

(写真提供：紙のまち資料館)

### 〈関連図書〉

- ・愛媛子どものための伝記刊行会『愛媛子どものための伝記 第2巻 篠原朔太郎・三好保徳・岡部仁左衛門』愛媛県教育会 1983年
- ・村上節太郎『伊豫の手漉和紙』東雲書店 1986年
- ・愛媛県史編さん委員会『愛媛県史 人物』愛媛県 1989年
- ・森実善四郎『紙聖 篠原朔太郎翁』西日本衛材 1992年
- ・妻鳥和教『紙拓の人 住治平翁伝』予讃経済レポート 1998年
- ・妻鳥和教『続 紙拓の人 住治平翁伝』妻鳥和教 2000年
- ・『愛媛人物博物館 人物探訪第4集』愛媛県生涯学習センター 2002年
- ・『発掘えひめ人-近代を拓いた101人-』愛媛新聞社 2002年

〈主な収蔵資料〉…(P203, 43)

〈ゆかりのある場所〉…(P282, 74)

〈関連施設〉…紙のまち資料館

〒799-0101 愛媛県四国中央市川之江町4069番地1 TEL: 0896-28-6257

紙の博物館

〒114-0002 東京都北区王子1丁目1番3号 TEL: 03-3916-2320